



遊佐町

山形県庄内地方の最北端に位置し、西に庄内砂丘をへだて日本海に臨み、北は東北に誇る秀峰鳥海山を境に秋田県と接し、東は出羽丘陵に囲まれ、南は酒田市に隣接しています。総面積208.41km²で、地形は山間、山麓、平野、砂丘地帯に大別され、面積の約28%が平坦地です。鳥海山水系の各河川が町内を貫流し日本海に注ぎ、一町で海、山、川、砂丘、

温泉の五大自然を提供できる多様な自然条件に恵まれています。四季の自然色を楽しませてくれる私達の町は、農業が基幹産業です。そしてその主役は米づくり。水田は鳥海山からの清冽な雪解け水によって育まれています。

食料自給率向上モデル 飼料用米プロジェクトの意義

1

食料自給率を飛躍的に上昇させるモデルであること。

国内の減反田、約100万ヘクタールを耕作することにより穀物自給率を20%アップできるモデル。

2

社会の宝である子供達に、しっかりと維持管理された国土を渡せること。

3

世界に誇れる日本古来の水田文化を守る

また平成5年のような大凶作時にも米が不足しないこと。

4

そこから収穫できる米を家畜に与えることで、遺伝子操作のない安心・安全・高品質な畜肉が生産できること。

5

家畜の排泄物から作られる質の高い堆肥を土地に戻すことで土地を肥沃に出来ること。

6

疲弊している農村に活力を与えること。

7

環境破壊、人口爆発による食料の奪い合いに備えた食料安全保障が図られること。

「食べる手・作る手・つないで食の再興計画」

日本の食卓を救う

米どころ山形県庄内平野の減反田で作ったお米で豚を育てる「飼料用米プロジェクト」は日本の食料自給率を大幅に向上させ、日本古来の水田文化を次世代に伝え、さらには食の安全保障にもつながる社会性の高いモデルとして専門家の方々をはじめ多くのマスコミからも注目されています。



【食べる手・作る手・つないで食の再興計画】

飼料用米が 日本の食卓を救う



食料自給率
アップへの挑戦



飼料用米プロジェクト

庄内地区飼料用米生産利用拡大推進協議会

食料自給率向上モデル飼料用米プロジェクト

遊佐町・酒田市・JA全農山形・(株)平田牧場・生活クラブ生活協同組合連合会